



障害のある子どものICT活用



発達支援教育学科の集中講義「障害のある子どものICT活用」では、障害のある子どもの生活や学習に有効なICTの利用方法について学修します。講義後半には、タブレットやスマートフォンなどを用いた模擬授業を、グループごとに発表します。



吉原 未紗

大学2年
 発達支援教育学科
 千葉県銚子市立
 銚子高等学校出身

子どもを支援する方法の一つとして、ICTを活用することは容易に思いつくと思います。しかし、具体的にどの場面でアプリや機能を使えるのか知らなければ、効果的にICTを活用できません。また、ICTはあくまでもツールであることを理解しておくことが大切です。講義では、実際にiPadやパソコンを操作して、実践的に学ぶことができ、貴重な体験ができました。支援の方法一つで、子どもの生活が大きく変わり、人生を豊かにすることに繋がります。そのため、ICTについて詳しく学ぶことは必要不可欠であると感じました。



斎藤 汐里

大学3年
 発達支援教育学科
 千葉県立
 茂原高等学校出身

4日間という短い期間でしたが、多くの学びを得られました。今まで知らなかったアプリの使い方や実践例などを学びました。特におもしろかったのは、ICTを活用した授業づくりを行うグループ活動です。現場で実際にICTを活用している講師の先生方にアドバイスをいただき、グループで意見を出しながら授業をつくることで、たくさんのアイデアを吸収することができました。障害のある子どもたちにどのようなICTを活用できるか、学生のうちにもっとICTに触れてたくさん引出しをつくっておきたいと思うようになりました。



作業学演習Ⅰ(木工)



リハビリテーション学科 作業療法学専攻の講義「作業学演習Ⅰ(木工)」では、作業療法における木工技術やおもちゃ遊びの必要性について考えました。また、ライフステージに応じたおもちゃの役割や、おもちゃ遊びから生ずる心身の動きについてグループで回想しました。



豊倉 丈皓

大学1年
 リハビリテーション学科
 作業療法学専攻
 山形県立
 鶴岡北高等学校出身

対面で講義を受けるのは今回が初めてだったので緊張しましたが、仲間と学び合える有意義な時間になりました。おもちゃ遊びを通して、おもちゃに込められた思いについて知ることができました。遊び方はさまざまであり、自分でアレンジを加えることでいくらかでも遊びを広げられることを学びました。おもちゃを作ることは難しいと思っていましたが、実際に作ってみると、夢中になって作業に取り組んでいました。おもちゃ作りは、ただ物を作るだけでなく、仲間との絆や笑顔もつくれることができる作業であることを実感しました。



森田 胡実

大学1年
 リハビリテーション学科
 作業療法学専攻
 千葉県立
 若松高等学校出身

プラスチックでできたパズルのようなジェリックやバランスゲームとしてとても面白いスティッキーなど、子どもの頃に遊んでいたおもちゃとは、少し違った新しいおもちゃで遊びながら学びました。

子どもの頃は、夢中になって遊んでいたおもちゃもだんだん遊ばなくなり、大人になったら見守るという形でしかおもちゃとの繋がりをもたなくなります。この授業を受けて、おもちゃはどの年齢でも楽しめるし、おもちゃのパッケージに書いてある遊び方は、推奨するものであり自分なりに遊び方やルールを決められるという、ウキウキした気持ちを味わえるのもおもちゃ特有のものだと考えました。